

半九レインボースポーツクラブ(宮崎県宮崎市)の支援活動

東日本大震災は東日本各県に甚大な被害をもたらしました。一日も早い復旧・復興を願っています。

津波被害の映像を目のあたりにした瞬間、居ても立ってもいられなくなった「半九レインボースポーツクラブ」の澤山貴義理事長は、2日後には支援物資を車に積み込み、宮崎から片道約1,700km、28時間かけて仙台市に届けました。

それ以降、昨年の口蹄疫被害等で多くの支援を受けた感謝の意を込めて「ありがとう宮崎チーム」を組むなどして、これまで被災地において計6回の支援活動を行っています。



これまでの主な支援活動は、県内総合型クラブ仲間に応援を呼びかけ、集めた支援物資を避難所に届けたり、支援物資の仕分け、被害を受けたクラブが管理するプールの雨樋修理やトイレ清掃、がれきの撤去、炊き出しの手伝い、被災した子どもたちを対象としたサッカースクールやフライングディスク等スポーツ・レクリエーション活動、商店街のフリーマーケットで宮崎の特産品を販売し売上金を寄付、東北復興記念サッカー大会やサマーカヤックスクールに参加しました。また、現地のクラブ討論会で震災後のクラブ動向報告や総合型クラブが果たすべき社会的役割について意見交換するなど、様々な支援活動を行ってきました。

現在もクラブでは、関係者に広く呼び掛けを行い「チャリティカヤックスクール」や「災害支援Tシャツ販売」の益金を義援金に当てるなどの活動を継続しています。本県特産品等を復興応援物資として仮設住宅に届けることや、子どもたちの受け入れなども検討しており、最新の情報に耳を傾けながら、背伸びせず今できることを仲間呼び掛けています。



また、澤山理事長は、6月の「県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会」及び10月の「スポーツボランティア養成講習会」で支援活動を紹介しました。このことにより、なお一層の支援活動の広がりを期待したいところです。

ひとりひとりの力(声)は小さいですが、被災地のクラブや組織、関係機関との連携を通じたなかから最新情報に耳を傾けていくことで、クラブが地域コミュニティ拠点となり、必要な物を、必要なタイミングで、継続的に支援活動ができるのではないのでしょうか。“支援活動に大切なことは何ですか。”との問いに、クラブ同志の立場に立って仲間の事を思いやる「気持ちです」と言う澤山理事長の言葉が印象に残っています。

宮田育俊 みやざき広域スポーツセンター クラブ育成アドバイザー

【半九レインボースポーツクラブ プロフィール】（平成 23 年 9 月現在）

1 設 立 平成 22 年 1 月 30 日

「半九」とは、旧宮崎郡清武町出身の幕末の儒学者安井息軒が好んだ言葉で「百里を行く者は九十を半ばとす」を略したもの。半九公園や半九ホール等地元では親しまれている。

2 地 域 宮崎市清武町（旧宮崎郡清武町）人口約 28,000 人

特性：宮崎市のベッドタウンとして発展。工業団地も整備され学園都市の性格を持つ。
平成 22 年 3 月に宮崎市と合併。

3 クラブ 会員：数 108 名

特徴：宮崎の恵まれた気候と自然を大いに活かし、健常者から障がい者、子どもから高齢者まで一緒に参加して楽しめるプログラムを実施している。

年間予算規模：約 770 万円

4 連絡先 〒880-000 宮崎県宮崎市生目台東 4-6-1

TEL 0985-59-9118 (FAX) 0985-59-9238

Email rainbow_3080@yahoo.co.jp

URL http://www.geocites.jp/rainbow_3080/

▼宮田育俊氏プロフィール

<http://www.japan-sports.or.jp/local/outline/adviser/45.html>